

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	特別講座 1	
科目基礎情報					
開設学科	情報ビジネス科	コース名	コース共通	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	選択	時間数	15時間
単位数	1単位	開講時間	時間割外	授業形態	講義
教科書/教材	事前に研修先情報として、資料を配布				
担当教員情報					
担当教員	風間 恵		実務経験の有無・職種	無	
学習目的					
学生が最新社会動向を業界のプロフェッショナルから聴講し、見識を広めることを目的とする。ビジネス分野においては多岐にわたり、今後必要とされる人材は、知的好奇心を持ち、興味を持った事柄についてはその深層まで探究することができる人間である。さらに、多様性が求められる昨今、学生とは異なる環境にいる人との交流を持つことが多様な価値観を持つ他者への理解につながる。本講義では社会で活躍する様々な方から講義を受け、学生自身の知識を深め、自身の成長につなげる為に行うものである。					
到達目標					
学生が本講義を聴講することで、最新の社会動向に深く関心を持ち、主体的に勉強会、カンファレンス等に参加するようになることを目標とする。さらに、就職活動をする上で学生自らの目指す業界、人材像を定めることができるようにする。多様な価値観を持つ他者に対して、想像力を持って接し、思いやりを持つことを目指す。 聴講レポート作成を通して文章作成能力を向上させ、情報を整理して発表するための論理的思考力を養うことを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	本講義では外部講師による講義となるため、各講師ごとに事前調査、聴講、聴講結果報告の3ユニットで実施する。 聴講内容の理解がより深まり有意義なものとなるため、事前調査は必ず行い、重視する。授業時間外での主体的な予習も行い、知識定着のため、聴講しただけで終わらず、必ず聴講結果レポートも作成する。また、外的環境との関わりにおけるビジネススキル向上を意識し、受講マナーについても指導を行う。				
注意点	本講義では学生が主体的に学習する姿勢を重視する。具体的には事前調査の精度、外部講師への積極的な質問、関わりを評価する。聴講後のレポートには、聴講内容を羅列するだけではなく、自らの考えや新たに学習した事柄について調査した結果等を記載することを求める。講義中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。講義に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受講することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	70%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回） 1回（ 1 ）時間 ※45分を1時間とする					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	事前調査（1）		聴講テーマにそった事前知識を調査し、情報を整理することができる。		
2回	事前調査（2）		聴講テーマにそった事前知識を調査し、情報を整理することができる		
3回	事前調査報告（1）		事前調査によって整理した情報を他者と共有するために説明、発表することができる		
4回	事前調査報告（2）		事前調査によって整理した情報を他者と共有するために説明、発表することができる		
5回	聴講（1）		知的好奇心をもって聴講し、見識を深め、テーマについて深層まで探究することができる		
6回	聴講（2）		知的好奇心をもって聴講し、見識を深め、テーマについて深層まで探究することができる		
7回	聴講（3）		知的好奇心をもって聴講し、見識を深め、テーマについて深層まで探究することができる		
8回	聴講（4）		知的好奇心をもって聴講し、見識を深め、テーマについて深層まで探究することができる		
9回	聴講（5）		知的好奇心をもって聴講し、見識を深め、テーマについて深層まで探究することができる		
10回	聴講（6）		知的好奇心をもって聴講し、見識を深め、テーマについて深層まで探究することができる		
11回	聴講結果報告（1）		聴講内容を振り返り、新たな知識を定着させることができる		
12回	聴講結果報告（2）		聴講内容を振り返り、新たな知識を定着させることができる		
13回	聴講結果報告・発表会（1）		結果報告、自ら調査した事柄を他者と共有するために、情報を整理して説明することができる		
14回	聴講結果報告・発表会（2）		結果報告、自ら調査した事柄を他者と共有するために、情報を整理して説明することができる		
15回	まとめ		これまでの授業の振り返りができる		